

2026 年 9 月 24 日

豊岡市議会

議長 浅 田 徹 様

議会広報広聴特別委員会

委員長 前 田 敦 司

委 員 会 調 査 中 間 報 告 書

本委員会に付託された調査事件について、豊岡市議会会議規則第 45 条第 2 項の規定により、下記のとおり中間報告します。

記

1 付議事件

議会広報紙の発行及び市民意見の聴取、並びに広報・広聴に関する調査研究等

2 委員会調査経過

本委員会は、2025 年 11 月の臨時会において委員選出が行われ、新体制でスタートした。

議会広報紙の発行にあたっては、会議録や原稿の確認を重ね、記事の読みやすさに配慮しつつ最終校正まで行い、従来の取り組みに加えて新たな工夫を取り入れた。

主な取り組みとして、今期は、より市民の皆さんに読みやすく、親しみを持っていただける議会広報を目指し、紙面づくりの見直しを進めた。

新体制となる第 104 号からは、冊子を従来の右開きから左開きへ変更した。さらに、第 106 号からは、これまでの紙面構成を改め、写真や余白を効果的に活用するなど、より見やすく読みやすいレイアウトへと更新するとともに、全ページのフルカラー化を実現した。

先進地視察としては、7 月 15 日から 16 日にかけて、島根県出雲市と鳥取県湯梨浜町を訪問し、「議会だよりの編集について」をテーマに調査を行った。

出雲市議会では、「市民に読まれる議会だよりの」を目指し、紙面デザインや編集方法を継続的に見直すとともに、一般質問の記事を QR コードと簡潔なコメントで構成することで、紙面の見やすさと編集作業の効率化を図っていた。また、小学生の作品を表紙に採用するほか、高校・大学への議会だよりの設置や公式 LINE の活用など、若い世代への情報発信にも積極的に取り組まれていた。

湯梨浜町議会では、専門用語や文字数を抑え、余白や写真を効果的に活用することで、雑誌のような親しみやすく読みやすい紙面づくりが行われていた。また、議会広報を一方的な情報発信ではなく「住民とのコミュニケーションツール」と位置付け、Google フォームなどを活用した読者アンケートを実施し、市民の声を今後の編集に反映する取り組みも進められていた。

いずれの議会においても、「議会が伝えたいこと」だけではなく、「市民に読んでもらうこと」を意識した紙面づくりが行われており、議会広報のあり方を考える上で大変参考となる視察となった。（詳細は「行政視察調査報告書」のとおり）

今期は、初当選し、市民目線を持つ議員も多く在籍し、その視点を活かしながら、前例にとられない議論を重ね、市民に親しまれる紙面づくりを実現することができた。

今後も今回の成果を踏まえ、より多くの市民に届く議会広報を目指して行く。

【議会だよりの発行】

○第 104 号（2025 年 12 月発行） 8 ページ

〈表紙〉 豊岡市制 20 周年記念式典オープニングを飾る歌声

- 〈内容〉
- ・ 議長就任あいさつ
 - ・ 新しい委員会構成
 - ・ 議員プロフィール
 - ・ 会派の抱負・取り組み
 - ・ 政務活動費収支報告
 - ・ 編集後記



○第 105 号（2026 年 2 月発行） 16 ページ

〈表紙〉 寒空を突く勇壮な水しぶき

- 〈内容〉
- ・ 12 月定例会の報告
 - ・ 一般質問に 18 人
 - ・ 意見書・請願
 - ・ 委員会の抱負と課題
 - ・ まちの仕掛け人 訪問インタビュー（豊岡消防団）
 - ・ 3 月定例会のお知らせ
 - ・ 編集後記



○第 106 号 (2026 年 5 月発行) 16 ページ

〈表紙〉 中竹野地区コミュニティセンターが
新築竣工しました

- 〈内容〉
- ・ 3 月定例会の報告
 - ・ 2026 年度予算概要
 - ・ 代表質問および一般質問
 - ・ 委員会の意見交換会報告
 - ・ 意見交換会をしませんか？
 - ・ まちの仕掛人 訪問インタビュー
(中竹野地区コミュニティ)
 - ・ 6 月定例会のお知らせ
 - ・ 編集後記



○第 107 号 (2026 年 8 月発行) 16 ページ

〈表紙〉 サプライズ花火に驚く一同

- 〈内容〉
- ・ 6 月定例会の報告
 - ・ 一般質問に 15 人
 - ・ 意見書・表彰
 - ・ 常任委員会管外視察報告
 - ・ 3 月定例会の委員会意見と当局回答
 - ・ 市議会って何をしているの？
 - ・ まちの仕掛人 訪問インタビュー
(道の駅 神鍋高原)
 - ・ 9 月定例会のお知らせ
 - ・ 編集後記



(今後の議会だよりの発行予定)

○第 108 号 (2026 年 11 月発行)

〈表紙・内容〉 未 定

3 今後の課題

本委員会では、第 106 号から紙面レイアウトの更新を行うとともに、これまで課題としていた全ページフルカラー化を実現し、より見やすく親しみやすい紙面づくりを進めてきた。

一方で、議会広報の目的は紙面を見やすくすることだけではなく、より多くの市民に手に取っていただき、議会への理解や関心につなげることである。

また、現在も発行日が議会開催月の翌々月となっており、市民への情報提供という観点から、より迅速な発行に向けた検討が必要である。

こうした現状や先進地視察で得た知見を踏まえ、今後の課題としては、以下の点が挙げられる。

- ① よりタイムリーに市民へ情報を届けられる方法を検討すること。
- ② 第 106 号から実施したレイアウト変更や全ページフルカラー化について、市民の反応や評価を把握し、今後の紙面改善につなげること。
- ③ 読者アンケートなど、市民の意見を継続的に把握する仕組みを検討し、広報活動と広聴活動をより一層連携させること。
- ④ 市民に関わる記事や市民参加型の記事を充実させ、「議会が伝えたいこと」だけでなく、「市民が知りたいこと」を意識した紙面づくりをさらに進めること。

これらの課題に取り組み、議会だよりを単なる議会情報の発信媒体ではなく、市民と議会をつなぐコミュニケーションツールとしてさらに充実させることで、幅広い世代にとってより身近で「開かれた議会」の実現を目指していきたい。